

7TH DRAGON
FANBOOK



adult only!

深紅の薔薇

PRINCESS
MAXI

※この同人誌にはパキネタが
含まれております。
ご了承ください。

■登場キャラ紹介■



■れつかいおう プリンセス

新米ギルド、グランプラーバキのリーダー。個性的な面子を飼いながら優秀な人物。普段は後方支援タイプだが、怒ると超マッハの鞭で相手を八つ裂きにする。料理が得意。ほめられると照れる>< 資金の調達も重要な役目♪ SとMの両面を持っている。



■ぴくる サムライ+ファイター

あらゆる武具を捨て肉体だけで闘争う時代錯誤の戦士。強敵にしか興味ない。すさまじい大食いでギルドのみんなを困らせる。よっていつもギルドは金欠。ぴくるの放つあらゆる攻撃はドラゴンを一瞬で食肉に変えてしまうほど凶悪。



■かつみ メイジ

グランプラーバキの会計兼雑魚散らし。イメージを具現化する力を持っており、イメージしたマッハの衝撃波で雑魚を一瞬にしてふきとばす。さらに強敵が相手のときは更なるマッハを使用する。旅の買い物などはすべてかつみの仕事。しかしあまりやいぐいできてない。

■本当はもう1人「じゃっく」というファイターがいたんですが
ぴくるに食われそうになってどこかへ行ってしまいました><

※バキキャラがコスプレしているわけではありません！

まえがき

らいでんです^^

今回はセフズドラゴン本です…あれ？

タイトル見てもしかしてと思った人いたかもしれないけど
半分バキ成分です！ごめんなさい！

だって話を考えたときに、ゲーむの名前がバキキャラの
なまえだったんだもの(´▽｀)

そんな感じでオレのセフズドラゴンは

実はこんな感じで旅をしてるんだよ！

というお話です。

いや～キャラかわいりんですが、俺の面子は
人気のなさそうなツインテ姫とポインメイジと
いもサムライです。みんな耳キャラにばかり
心奪われて嘆かわしいッッ

本当はじゃくという名の稀有なるファイターの
一人旅でやってたんですが、斧の性能がきつすぎて
今のメンバーに落ち着きました^^

あんたはファイターとして終わってんだよッッ


新米ギルド
グラップラーバキ

超攻撃型スキルの
女三人パーティ
である


各地のフロワロを払い
次々と竜を倒し
いつしかその名は
各地に広まっていた

そんな彼女らにも
問題はあった







というわけで
私れつかいおうは
体を使って
金稼ぎをはじめた



幸い高貴な身分も
あいまって
高い金で私を買う
男たちがすぐ集まった



プリンセスとして
奉仕技術には
自信があった



長旅でたまっていた
自らの情欲を
解放するにも
いい機会だった



私はうっ血した
怒張の脈動を
感じるように
口で包み込む




吐息を吹きかける
それだけで
男根は勃起
臨戦態勢となる



それからびくんびくんと震えるソレ全体を焦らすように舐めまわす

男が我慢できなくなるぎりぎりまで焦らすことによってお互い興奮するのだ

そして一気に根元まで奥深くのどに押し込む



男の我慢が
とうとう限界に達し
下腹部が痙攣を
はじめた

私の頭をつかみ
猛る肉棒をこすりつけ
限界の合図を送る
射精の合図である

はちきれんばかりの
怒張を握り締め
下半身に力を
入れるのがわかる

そして熱い滾りが
私に放たれた…

生臭いにおいと
舌に残る
なんともいえない
食感…

しかしコレで
終わりではない
多くの男を奉仕
すればするほど

報酬もそれに応じて
多くなる
もちろん自分のため
でもあるわけだが

男たちの興味は
私の豊満な
胸にあるようだ


まったく男と
いう生物は
女をただの肉だとしか
思っていないのか？

まあそれは
びくるとして
同じ事…


無論私も…
この熱く膨張した
男根を私の乳で
包み込んで
喰ってやろう

ブルン

ブルン



男は自らが包まれると
身動き一つしなくなった
迫りくる射精感を
必死に押さえ込んでいるのだ



ピクピク痙攣する先端を
唇でしぼりと包み込む
それだけで男の尿道は開き
射精の準備は整った

無理をしているなど
胸を伝う脈動から
すべてがわかる

予想を超えた射精
口内に広がる苦い感触
たまらず口から溢れ出
てしまった

こんなに射精を
受けてしまったら…
私も我慢できなくなってくる
しかしこちらから誘惑することは
できない…

ドキン

そう考えていると男が
私の下着に
手をかけはじめた

そうだ…
ここまでして
本番をしないで
終わるわけがない

…否ッ
私とて終われる
わけはなかったのだ…

オナニー
してよ

えっ？

ここでまさかの
リクエストだった

はき

はき

はき

私はすでに潤っていた
自らの秘部を
卑猥な音を奏で
やさしく…
かつ大胆に愛撫する

んんん

んんん

んんん

イクツツ!

目の前にならぶ
男たちの滾りを見ていると
我慢はできなかった
私は一瞬で達してしまう

歌姫から奏でられる
情欲の叫びを聞き
男たちの肉欲は
頂点に達した

私の秘部はすでに
淫らな蜜を滴らせ
完全に開帳し
ただ男の怒張を受け入れる
それだけの肉便器と
化していた

ゆっくりと
ゆっくりと怒張が
私の秘部へ
歩み寄る

あまりの肉欲のあまり
私と男が接着するまでの
時がまるで
永遠とも思えるほど長く

そしてその長い間が
お互いをさらに
興奮させる

男は遠慮もなしに
最初から激しく
私を攻め立てた

膣内が完全に
男の怒張で満たされる
さらに奥へ奥へと
掘削するかのよう
に繰り返す突き上げる

子宮が歪むたび
脳がはじけ飛ぶほどの
快感の波が
私に打ちつけられる

幾度となく絶頂を
繰り返し感度は
そのたびに高まってゆく
しかし意識だけは
はつきりとしている

ひたすら快感なのだ
男を受け入れる
その行為が

果てていた男たちも
勢いを取り戻し
肉欲の祭りに
参加し始める

絶頂と陵辱の快感に
表情をゆがめ
私は更なる高みへと
上昇してゆく
そして…

これ以上は
危険——
そう悟った私は

EXゲージをすべて
消費して
全身を震わせ
一気に頂点へ達する


精液にまみれ
体中の血液が
それと交わるのを
全身で感じながら…

結局その後
何度も何度も行為を
繰り返し
気づいたときには
日が暮れてしまっていた



おっそいな






びくるは旅の過程で
急激な進化を
遂げていったが
顕著であったのは
食の進化であった

差し出された肉棒を
巧みに愛撫し完全に
怒張させてから
ゆっくりと中身を
いただくのである

いまや3人の中で
一番口技は
巧みである



普段は仕事をサボってるが
3人の中でも一番妖艶な
体を持つかつみも
同じく体で
旅のサポートをしている

無論その懐の意味する
ところに自分自身の
情欲も含まれている
ことはいうまでもない

他ギルドの男たちの
性を満たし
自分たちの懐も
満たすのだ



そんなこんなでまあいふれた話でした！
ぴくるにかかる一日の食費はパロの実 1000 個分。
そのためには行く先々の街で体を使って
お金を稼ぐしかないのでした…。
まあホントなら脅して金とればいい気がしますが^^

とまあコしかいてる時点では
フレイムイーターがどこにいるかわかりません^^；
メイジが強すぎて他 2 名は空気です。まじで。
プリンセスは調教鞭打でだいたい恐怖ハメで
使えないことはないんですが、素手サムライは…。

とまあバキですよ！
ピクルも例外なくバキの前では接待ッッ
どんな展開になってもやっぱりバキは楽しいです。
話すと長くなるのでまたこんど！

漫画描くのぼてました…><；

最近はバキネタばかりだけど、テニプリ連載始まったので
そろそろテニプリネタも入れていきたいところ(´▽｀)



- 奥付 -

■ MAXING ぷいんせす ■

発行日 2009/05/31
発行 らいでんらぼ

印刷 金沢印刷様

An illustration of a character's face and hands. The character has pink skin and is smiling. They are holding a large, ripe peach with a green leaf. The background is white.

MAXING PRINCESS

らいでんらほ
Presents